



環境監査研究会代表幹事、
NPO法人社会的責任投資フォーラム代表

後藤 敏彦

1964年東京大学法学部卒業。
東京経済大学現代法学部非常勤講師、拓殖大学政経学部客員教授(非常勤)。
環境管理規格審議委員会EPE小委・14005WG委員、環境省化学物質と環境円卓会議メンバー、環境コミュニケーション大賞審査委員、日本環境経営大賞審査委員、などを務める。
『サステナビリティと本質的CSR』(共著・監修)他著書・論文多数。

イオンモール水戸内原を見学しました。行きの電車に大勢の中学生らしき子どもがいて、同じ駅で降りてゾロゾロと開店直前のモールに向かって歩いていきました。私も中に入ってみてよく分かったのは、モールは繁華街、「まち」だということでしたし、地域に根付いていることも実感しました。モールの価値を高め続けていくにはそれぞれの「まち」のコンセプトを高め、実現して行く不断の努力が必要とおもいますが、今回の見学では核店舗に少し課題があるとも感じました。

北京に海外1号店がオープンしましたが、特集としてもう少し情報が多ければもっと良いと感じました。昨年「異文化の共存、共振、発展への寄与がモールの最大の使命のひとつと考えます」と書きましたが、国内の地域毎の文化の違いとは比較にならない異文化ですから、ここでの経験が日本へもフィードバックされることも期待したい。オープンして間がないのでむをえませんが、日本とどう違うのか、何が特徴的なのかなど、未来への報告書として是非知りたいところです。モールのイノベーション、つまり「新しい価値の創造」は異文化との接触にかかっていると考えます。

地域社会との調和ということでは取り組みが深化しモール毎での工夫がすすんでいることも読み取れますし、専門店の顔がより見えるようになったことは評価できます。ただ、昨年にも述べましたがシルバー世代への取り組みはあるはずなので、もっと見せて欲しいところです。

「はたらく」ということで企業風土や職場環境に多くの頁を割かれています。筆者が関わっている環境gooの調査では読者からも期待している分野なので時宜に合ったものと評価します。

エコモールに関する取り組みは、すべてが目標達成しているわけではないものの「すごい」の一言につきます。取り組む人々の顔がみられるようになったのも良いと思います。さまざまな創意工夫により2012年には目標をクリアし世界に手本として発信されることと確信しています。それでこそすでに掲げられた2017年世界ナンバーワンの環境マネジメントモールが実現するでしょう。とはいえ、世界での取り組みは日進月歩であり、常にアンテナは高く張っておく必要性を付言しておきます。

冊子の編集は概ね見開き2頁で記事をまとめられており、たいへん読みやすいです。

今年、特筆すべきことはウェブを大きく改善され、そこに多くの定量的、定性的情報を掲載されたことです。昨年コメントした生物多様性についても頁をつくっていただけました。ただ最近、何社かで生物多様性基本方針を公表されるころができています。イオングループ全体の問題で御社だけのことではありませんが、是非ホールディング社に働きかけ作成を検討されることを勧めます。また、今年は英文版を作成されるとうかがいましたが、先行きは中国語版も必須になると考えます。中国で多くのモールを建設された暁には、中国語版は日本語版の翻訳でよいのか、独自のものとするのかは難しい問題ですが、当初から検討しておかれるべき課題と考えます。また、中国での環境報告書の制度化の動きについても注視しておく必要があります。中国語版をどうするか云々は、イオングループ全体の課題でもありますが、コミュニケーションなくして企業の発展はありえず、グローバル戦略の中で避けて通れない事項と考えます。